

グループ会社の情報セキュリティ対策実施を左右する要因の分析

Analysis of factors that affect the implementation of information security measures in group companies

小松 瑤子・法制倫理分科会・情報セキュリティ大学院大学

In order to achieve this, it is essential to take security measures for each group company, but there is a problem that many companies are not able to take such measures. The purpose of this study is to clarify the factors that affect the implementation of information security measures by group companies belonging to a corporate group.

1. 研究概要・目的

企業グループのセキュリティ強化は喫緊の課題である。このためには、個々のグループ会社のセキュリティ対策が欠かせないが、実施できていない会社が多くあるという問題がある。本研究では企業グループに属するグループ会社の情報セキュリティ対策の実施を左右する要因について明らかにすることを目的とした。

2. 現状の課題

企業グループの大型化と管理の難化

1997年12月に独占禁止法の改正により 持ち株会社が解禁となり持ち株会社が増え、多角経営を行う巨大な複合企業体が増加

コーポレートガバナンス問題の顕在化
・グループとしての基本的な方向性と実際の取り組みが整合していない
・自立分権を掲げながらも実際には結果管理すらせず放任
・情報セキュリティ対策も多くの企業において対策を実施することの重要性をが理解されていない

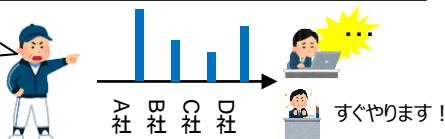
経産省が警鐘

自律的な対策が実施できていないのはなぜか？

3. 研究目的

グループ会社の担当者の心理との関係から情報セキュリティ対策の阻害要因を明らかにする

セキュリティ対策見直してください



4. 先行研究

●中小企業向けのガイドラインの提案
中小企業がISO27000XやCISSのようなガイドラインを活用するには過度に複雑で理解が難いため、中小企業向けにセキュリティレベルを測定できるようなISFAMモデルを提案し、効果を確認した。(2014, Spruitら)

●情報セキュリティに影響する中小企業の特徴
中小企業が情報セキュリティに影響を与える中小企業の特徴を抽出した。(2016, Minhardtら)
1.業態 2.収益 3.従業員数 など 11の企業特性が情報セキュリティに影響を与える

●情報セキュリティ対策におけるモチベーション
「経営者」と「情報セキュリティ責任者・担当者」の情報セキュリティ対策におけるモチベーションを構成する諸要因を把握し構造を明らかにした (2009, 菅野)
⇒ 阻害要因は技術ノウハウ、手間・効率、組織運営、理解度

5. 研究手法

- ①企業グループに増えるからこそある阻害要因について情報セキュリティに関係する立場の8名にインタビューを実施
- ②インタビュー結果と先行研究より1 2の設問からなるアンケート用紙を作成
- ③グループ会社のセキュリティ担当者へアンケートを実施
- ④アンケート結果から心理因子を分析、特定した

6. アンケート用紙の作成と実施

インタビューより予測された阻害要因

	阻害要因	例
先 菅野らの研究より	技術・ノウハウ	技術やノウハウ
	組織運営	経営層への説得など
	手間・効率	利便性の低下など
社 固 有 グループ会社	理解協力	社内へのセキュリティ意識の浸透など
	横並び	他社と同じ程度でいいだろう
	依存 (権限委譲)	親会社がなんとかしてくれる (勝手にやっていいのかわ不明)

6. 結果

グループ会社6 3社の回答を因子分析し 3つの心理因子を特定した

- 自立因子 自社でセキュリティ対応をしようとしているかどうか
- 社内因子 経営層・社員のセキュリティへの理解が得られているか
- 他社参考因子 他社のセキュリティ対策を参考にしようとしているかどうか

6. 考察

情報セキュリティ対策実施に対し、担当者が委託先に任せればいいと考えている可能性を示した。社内の理解を得られていることが実施を左右すると考えていることがわかった。担当者が、実施には他社を参考にする必要性があると考えていることが示された。